

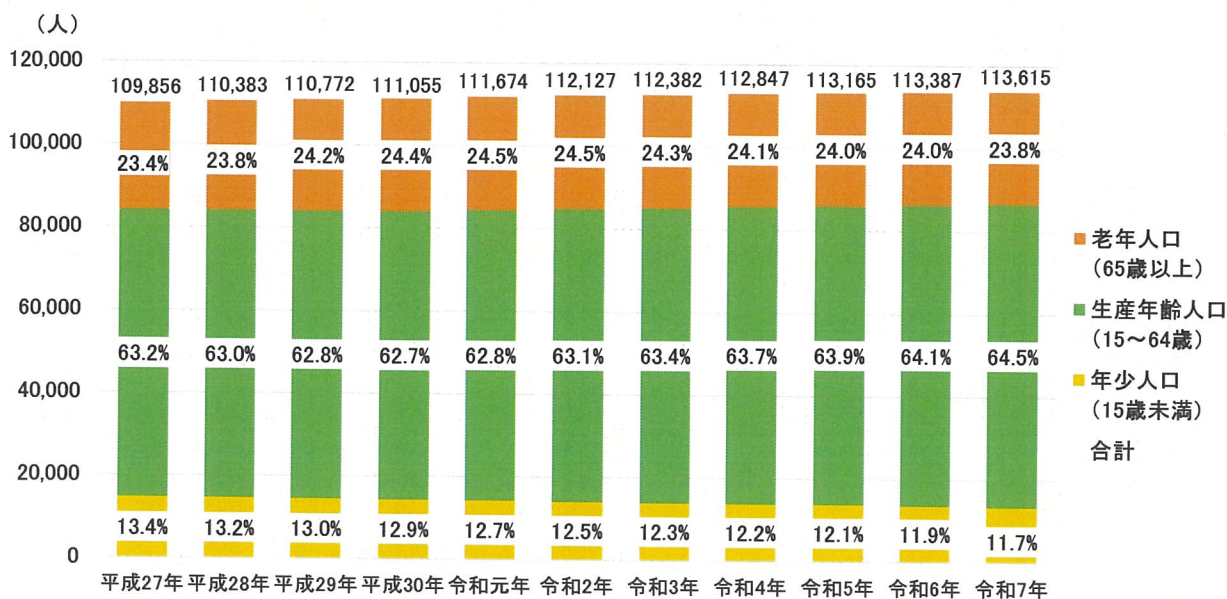
第2章 ごみ処理の現状

1. 人口と世帯の推移

本市の人口は、令和7年10月1日現在、113,615人です。過去10年間の年齢別人口の推移をみると、総人口は増加しており、このうち老年人口は令和2年以降減少に転じ、生産年齢人口は増加、年少人口は減少傾向にあります。

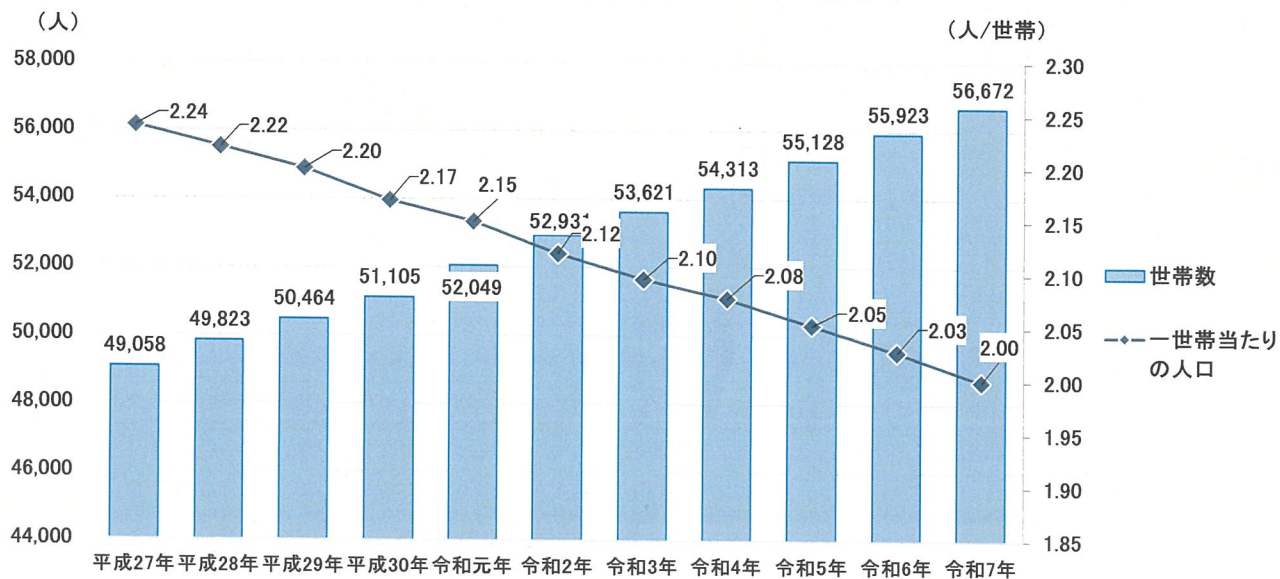
また、世帯数は56,672世帯となり、一世帯あたりの人数は2.00人です。世帯数及び一世帯あたりの人数の推移をみると、世帯数は増加する一方で、一世帯あたりの人数は減少しています。

過去10年間の年齢別人口の推移



※小数点以下の四捨五入により、合計値が合わない場合があります。

過去10年間の世帯数及び一世帯あたりの人数の推移



(6) 焼却灰・集塵灰・不燃残渣の排出量の推移

焼却灰・集塵灰・不燃残渣の排出量は、令和6年度 2,937 t で、平成 27 年度より 131 t 減少しています。これは、可燃ごみの総排出量が減少傾向にあることが主な要因となっています。

焼却灰・集塵灰・不燃残渣の排出量の推移

(単位：t)

	焼却灰	集塵灰	不燃残渣		合計
			粗大・不燃残渣	廃乾電池・廃蛍光管・キレート※	
平成 27 年度	1,906	905	218	40	3,068
平成 28 年度	1,914	882	247	38	3,081
平成 29 年度	1,885	892	236	34	3,047
平成 30 年度	1,936	885	243	34	3,098
令和元年度	1,929	923	266	35	3,154
令和 2 年度	1,928	937	287	38	3,190
令和 3 年度	1,600	884	247	30	2,761
令和 4 年度	1,544	899	238	32	2,713
令和 5 年度	1,753	922	241	29	2,945
令和 6 年度	1,806	892	209	30	2,937

※不燃残渣のキレートは、排水中に含まれる重金属を回収するために、排水に投入・回収された固定剤（キレート樹脂）です。重金属を含むため、不燃残渣として取り扱われます。

参考：「志木地区衛生組合の概要」を基に構成市のごみ処理人口で按分

(7) 最終処分量の推移

最終処分量は、令和6年度 1,026 t で、平成 27 年度より 518 t 減少しています。これは、可燃ごみの総排出量が減少傾向にあることや、焼却灰のセメント原料化やスラグ化が進んでいることが主な要因となっています。

最終処分量の推移

(単位：t)

	焼却残渣量	処理残渣量	合計
平成 27 年度	1,312	232	1,544
平成 28 年度	1,203	251	1,454
平成 29 年度	1,198	232	1,430
平成 30 年度	923	239	1,162
令和元年度	812	266	1,078
令和 2 年度	824	273	1,097
令和 3 年度	784	228	1,012
令和 4 年度	746	231	977
令和 5 年度	826	234	1,060
令和 6 年度	814	212	1,026

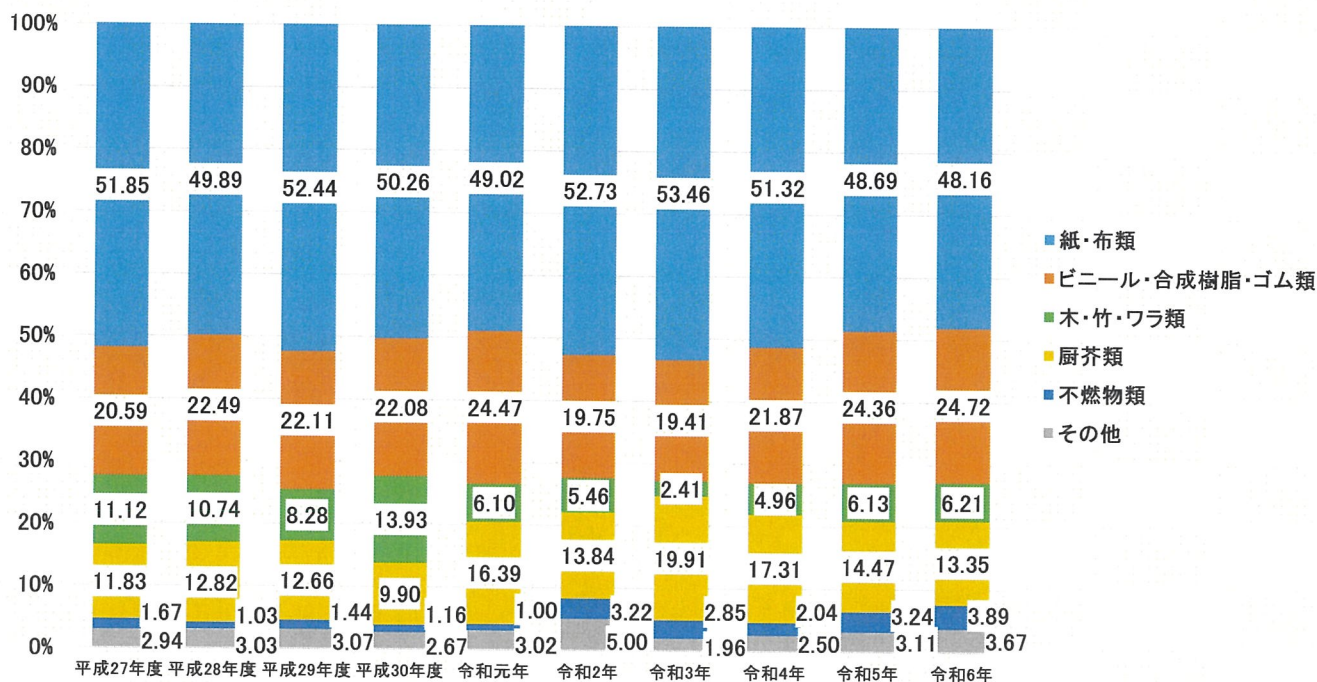
参考：一般廃棄物処理実態調査

6. 可燃ごみの組成

可燃ごみの組成は、令和6年度で紙・布類が約48.16%、ビニール・合成樹脂・ゴム類が約24.72%、木・竹・ワラ類が約6.21%、厨芥類が約13.35%となっています。紙・布類は減少傾向にあり、ビニール・合成樹脂・ゴム類、厨芥類は増加傾向にあります。この中には、資源として回収すべきものも多く含まれています。

また、可燃ごみの性状分析の結果、令和6年度分の水分の割合は45.23%となり、直近10年間はほぼ横ばいの状態が続いています。

可燃ごみの種類別組成(乾物基準)



出典：「志木地区衛生組合の概要」

可燃ごみ性状分析結果湿物基準成分一覧

項目	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
水分(%)	47.22	50.41	47.09	47.42	48.57	43.32	44.20	48.09	46.49	45.23
灰分(%)	6.05	5.17	5.65	5.27	4.70	7.37	6.26	5.21	6.48	7.21
可燃分(%)	46.73	44.42	47.26	47.31	46.73	49.31	49.54	46.70	47.03	47.56
低位発熱量(kcal)	1,900	2,017	1,963	1,930	2,058	2,287	1,963	2,053	2,172	2,209

※低位発熱量：志木地区衛生組合は、設計値より発熱量が高い傾向にあります。発熱量が高い場合、紙、布、プラスチックなど燃えやすい資源となるものが多く含まれるので、資源化を推進し、ごみ焼却施設を適切に管理するため発熱量を下げる必要があります。

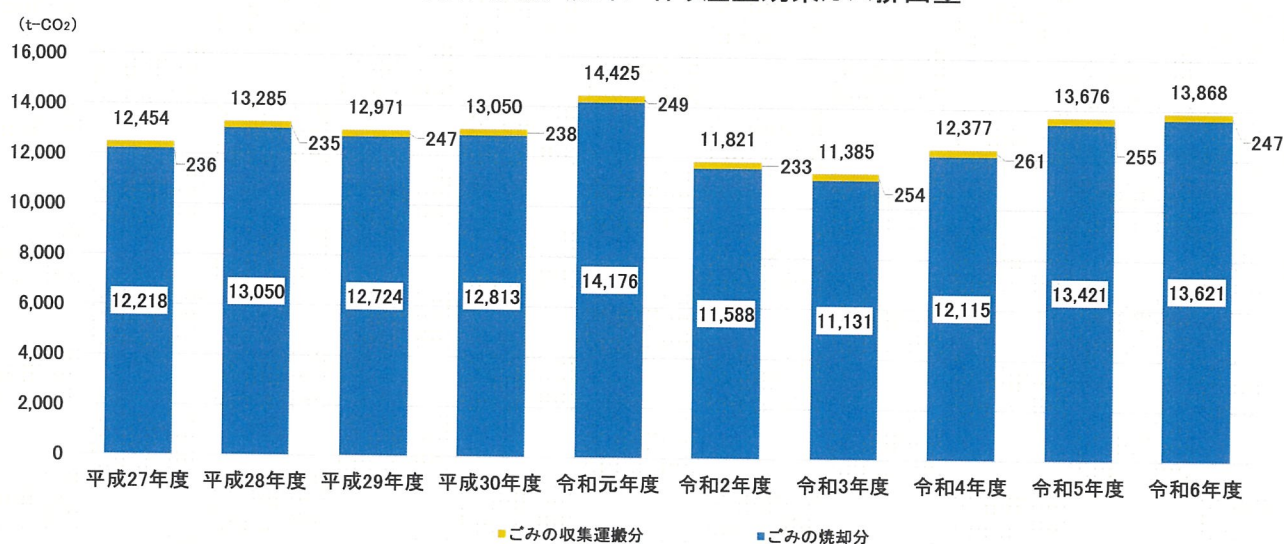
出典：「志木地区衛生組合の概要」

7. ごみ処理に伴う温室効果ガス排出量

本市のごみ処理に伴う温室効果ガスの排出量は、令和元年度に最大で 14,425 t - CO₂ となりました。この排出量の 97%以上は、家庭や事業所から排出されるごみの焼却により発生しています。

また、令和 2 年度は新型コロナウイルスによる活動自粛の影響で、事業系ごみから排出されるプラスチックの量が大幅に減少したため、温室効果ガスの排出量も減少しました。しかし、活動自粛の緩和に伴い、排出量は再び増加傾向にあります。

ごみの収集・運搬・焼却に伴う温室効果ガス排出量



焼却量に対するプラスチックの割合

(単位：%)

平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元 年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
20.59	22.49	22.11	22.08	24.47	19.75	19.41	21.87	24.36	24.72

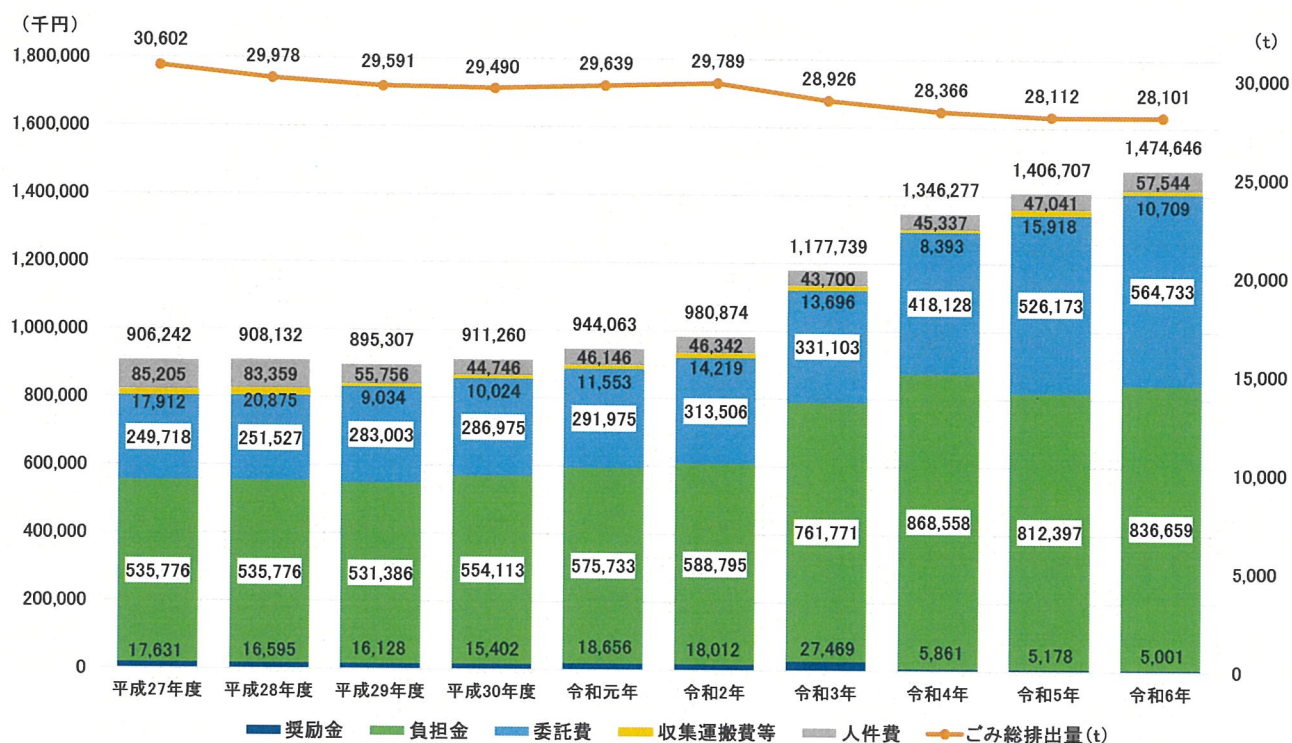


8. ごみ処理経費

令和6年度のごみ処理経費（し尿処理費を除く。）は、志木地区衛生組合への負担金、収集・運搬費などで、総額約14億7千万円となっています。ごみ処理人口からみると、1人あたり年間1万3千円程度となっています。

近年、ごみ処理経費は増加傾向にあります。志木地区衛生組合への負担金や許可業者等への委託費が増加しているためです。

ごみ処理経費の状況



また、1人あたり年間ごみ処理原価・1kgあたり年間ごみ処理原価は以下のとおりです。

年度	平成27	平成28	平成29	平成30	令和元	令和2	令和3	令和4	令和5	令和6
1人あたり年間ごみ処理原価（千円）	8.20	8.20	8.10	8.20	8.50	8.75	10.48	11.93	12.43	13.00
1kgあたり年間ごみ処理原価（円）	29.60	30.30	30.30	30.90	31.90	32.93	40.72	47.46	50.04	52.48